令和７年度学生チャレンジプロジェクト

歴史的空間コンペティション及びU30復興デザインコンペの参加

お問い合わせ：新2号館 3階 益尾研究室まで

人口減少・少子高齢化や自然災害など、我が国は多くの社会問題を抱えている。こうした社会問題に、建築学生である私たちは、どのように向き合うべきか考える必要がある。本活動では、大規模なコンペティションへの参加を通じて、審査委員の先生方や、昨年度のコンペティションで実績を持つ大学院生からの指導を受けながら、参加学生の成長を図るとともに、入賞を目指すことで建築学科全体の意識向上に寄与することを目的としている。

OVERVIEW

歴史的空間再編コンペティション2025 の参加

歴史的空間再編コンペティション2025は、全国に存在する歴史的空間を再編しようとする設計作品を対象としている。「学生のまち・金沢」、「歴史都市・金沢」に全国の学生が集い、競い合い、学び合うことにより、歴史的空間のストックを見つめ直し、新しい価値を生み出すことを目的としたコンペティションである。
学生の提案力・企画力の向上および大学全体の活動意識向上を目的として設計コンペティションに参加した。今回は様々なテーマで合計4作品を応募した。

エントリー期間 7月1日(火)～10月3日(金) 〉 1次審査 10月17日（木） 〉 グランプリ大会1日目 2次審査 11月22日（土） 10:30～17:00 〉 グランプリ大会2日目 最終審査 11月23日（日） 9:30～18:00

本活動における提案は、１チームが一次審査を通過し、公開二次審査に進出した。残念ながら最終審査に進むことはできなかったがいずれも素晴らしい経験を得ることができた。このコンペティションを通じて、多くの歴史的な空間を再編することを学ぶとともに、日本の文化について深く考える機会となった。提案内容はまだまだ未熟であるが、社会の課題に少しでも貢献できることを願う。本活動は、個々のスキル向上だけでなく、大学全体での意識向上にもつながる非常に意義のある取り組みである。来年度以降も継続して取り組みを進めていきたいと考える。

模型製作の様子

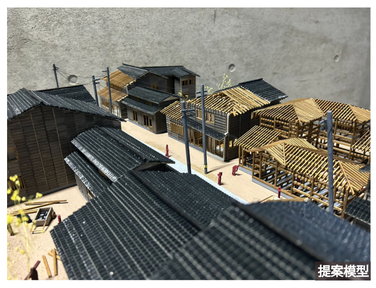
模型製作の様子

模型製作の様子

「普請教育」提案概要

「普請」とは、自然と共に暮らし、地域住民が助け合いながら建築してきた伝統的な文化である。戦前は、住民同士の支え合いと職人による伝統工法の継承が生活を成り立たせてきた。しかし、戦後、住宅の工業化によりプレハブ工法の住宅が増加し、自然と調和した景観は、均一化した建物の影響で失われた。その結果、現在の日本には解体困難な建物が多く点在し、伝統的な技術や地域のつながりは衰退しつつある。一方で、伝統工法の建物は再生・改修することができ、持続可能な社会づくりにおいて重要な役割を果たす。その技術を継承するためには、「普請」の精神を現代に再び根づかせることが不可欠である。本提案では、「普請」の精神を持ち、伝統工法の学習を行う教育の仕組みを構築し、持続可能なまちをつくることで歴史的な空間と文化の存続を目指す。

提案模型

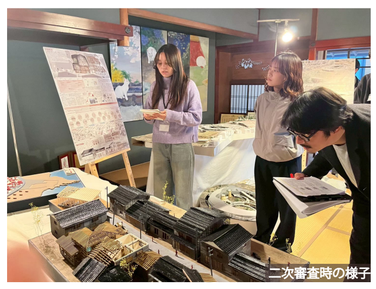

提案模型

提案模型

大会当日の様子

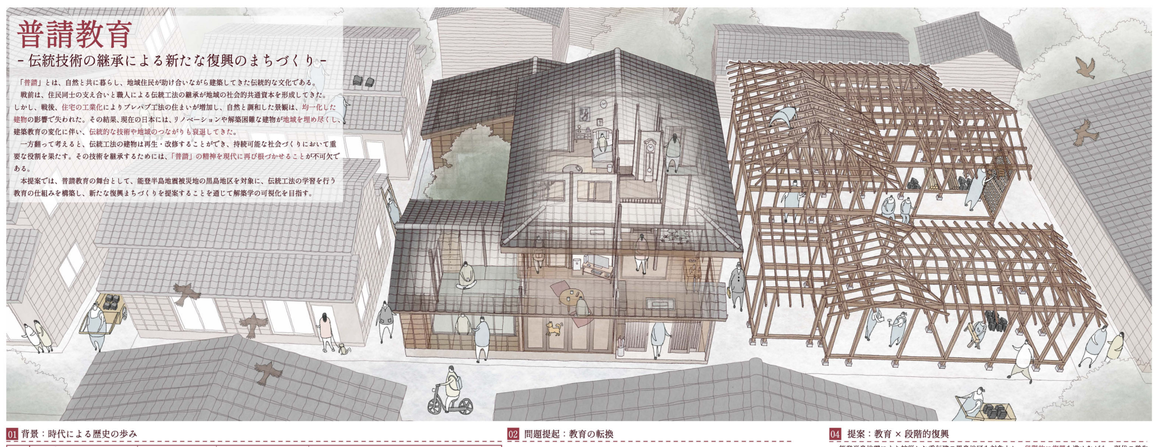
本番は金沢学生のまち交流館にて模型とシートを展示しながら、巡回している審査員の先生方と共に歴史の空間や文化、キーワードについて議論をし、これからの歴史保存や空間の使い方についてイメージ共有と今後の歴史的空間の在り方について考えた。

二次審査時の作品展示


二次審査時の様子

二次審査時の様子

EXPERIMENT



U30復興デザインコンペティション2025 の参加

今年のＵ30 復興デザインコンペでは、昨年に引き続き「孤立する都市」をテーマに作品を募集する。能登半島のほかにも、戦争や災害で長期・短期に「孤立」を経験した地域が各地にあり、大規模な災害からの復興やその後のまちづくりで「自立」しつつある地域もある。災害と「孤立」を手掛かりに、現在の復興・事前復興、ひいては都市居住、地域社会への問題提起を試みる。
学生の提案力・企画力の向上および大学全体の活動意識向上を目的として設計コンペティションに参加した。今回は4作品を応募した。

エントリー期間 7月1日(火)～9月30日(火) 〉 1次審査 11月2日（日） 〉 大会開催 2次審査・最終審査 12月7日（日）

本活動における提案は、１チームが一次審査を通過し、公開二次審査に進出した。そして最終審査に進むことはできた。賞を受賞することはできなかったがいずれも素晴らしい経験を得ることができた。このコンペティションを通じて、今後の災害についての対策や被災地の現状、復興の在り方を学ぶことができた。自分たちの提案内容はまだまだ未熟であるが、様々な問題に少しでも貢献できることを願う。
本活動も同様に、個々のスキル向上だけでなく、大学全体での意識向上にもつながる非常に意義のある取り組みである。来年度以降も継続して取り組みを進めていきたいと考える。

模型製作の様子

模型製作の様子

模型製作の様子

「引き算で描く復興温泉街」提案概要

全国の温泉街では、解体できない大規模旅館の廃墟化が進み、再投資が困難となっている。石川県和倉温泉では能登半島地震により大型旅館が甚大な被害を受け、公費解体及び生業再建支援が推進されている。本提案では、大規模旅館を再建するのではなく、公費解体を契機と捉え、解築可能な木造低層旅館へとダウンゾーニングし、上層部の客室を空洞化した温泉街に分散することで、そぞろ歩きのできる情緒ある温泉街への再構築を行う。

提案模型

提案模型

提案模型

大会当日の様子

本番は愛媛大学にて模型とシートを展示しながら、巡回している審査員の先生方と共にキーワードについて議論をした。最終審査では、会場にて全体講評と公式 YouTube アカウントでの配信で提案の内容を発表し、質疑応答やアドバイスを受けさらに復興に対する考えと新たな視点を持つことができた。

二次審査時の作品展示

二次審査時の様子

二次審査時の様子

EXPERIMENT